

ノースカロライナ大学シャーロット校の図書館

宮川 昭義(経済学部准教授)

今回、国外研究留学の機会を札幌大学から得ることができ、まずは関係各位のみなさんへ感謝申し上げたいと思います。わたしが留学先に選んだ University of North Carolina at Charlotte (以下、UNCC) はアメリカ東南部に位置するノースカロライナ州にある州立大学の一つです。

ノースカロライナ州にある世界的に有名な私立大学としてはデューク大学(Duke University)があります。しかし、州民にとってはむしろ全米最古の州立大学で学術研究でもトップクラスである University of North Carolina at Chapel-Hill (UNC) を中心とする州立大学群の方に親しみがあるようです。UNCCも学生数で州内4番目の規模を誇る大学群の一翼を担っています。

シャーロットはノースカロライナ州最大の都市であり、Bank of AmericaやWachoviaといった世界有数の金融機関が本店を構えています。そのため、シャーロット市民はわが街をアメリカ第二の金融都市であると自負しています。一方で、観光都市ではありませんが、州内では原子力研究が盛んなため、日本法人(東芝・三菱・日立など)の駐在員が、近年、急速に増えてきているようです。

さて、UNCCの図書館ですが J. Murrey Atkins Library といいます。この J. Murrey Atkins は、UNCC 理事会初代委員長の名であり、図書館はキャンパスの中心部に位置しています。広大なキャンパスの中心部に図書館を据えることで、学生同士の待ち合わせなどに利用してもらい、学生が図書館に足を留めやすくするねらいがあるそうです。

Atkins Library は、学術図書の充実が研究機関として発展していくために必要不可欠であるとのコンセンサスの下、1946年の開学から比較的歴史が浅いにもかかわらず、すでに100万冊を超える蔵書があり、その他電子書籍や稀少本の蓄積に大変熱心です。

(画像は冬休みに撮影したため閑散としていますが) 特筆すべきは、基本的に図書館開館時間が24時間体制であり、その利便性の高さから学生による利用頻度が極めて高く、とくに学期末テスト(大量のレポート課題)勉強のため泊まり込む学生も少なくありません。館内のコーヒーショップは深夜(11:30pm)まで営業しており、軽食などをとることが可能です。キャンパス域内は学生およびスタッフIDにより学内無線LANへ容易に接続可能であることから、個人所有のノートパソコンから図書館の利用状況を把握できます。

興味深いのは、UNCCでは日本語学科が設けられていることから、日本語の蔵書も他大学に比べて格段に多いことです。先日、キャンパスを歩いていた見知らぬ学生に、日本語で挨拶されました。日本語学科のHPもあるようなので見てみるとおもしろいかもかもしれません。

運良く研究室も用意していただき、研究テーマを同じくするホスト役の教授との共同研究も少しずつですが進んでいます。1年という短い期間ですが、是非、有意義な研究期間となるよう心がけながら生活しようと考えています。



J. Murrey Atkins Library



図書館内